

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育方法論 The theory of educational methods		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)、栄養教諭))	英語・栄養の教職課程履修者のみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
(主) 松崎勇人、保坂里絵	本館2階	講師の講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
教育方法の基本を理解する。教育の技術(情報機器および教材の活用)について理解する。授業の方法や評価法を理解する。発達と教育方法について考える。				
授業の目標				
①様々な教育の方法及び技術(情報機器および教材の活用)について区別し、これらを実際に目的に合わせて活用することができるようにする。 ②授業を構成する要素や方法や評価方法を工夫することができるようにする。 ③発達に応じて教育方法を工夫することができるようにする。				
授業の方法				
黒板やプリントを使っての説明を行う。実践事例に触れる。また、教育に関するテーマについて討論したり、基本的問題を解いて発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育方法の種類や様々な教育の技術の長所と短所を述べ、使い分けることができる。 (2) 授業を構想し評価し反省できる。 (3) 発達に応じて教育方法を工夫することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(松崎・保坂)			
第2回目	教育方法の種類(学問の体系的性を重視する立場)(松崎)			
第3回目	教育方法の種類(生活重視の立場)(松崎)			
第4回目	教育方法の種類(全人的陶冶の立場等)(松崎)			
第5回目	教育評価の基本(松崎)			
第6回目	新しい教育評価(ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価)(松崎)			

第7回目	授業を構成する要素（松崎）	
第8回目	情報機器とそれにふさわしい教材の活用（松崎）	
第9回目	子どもの発達とそれに応じた教育方法（保坂）	
第10回目	遊びとその実践例（保坂）	
第11回目	遊びとその実践例（保坂）	
第12回目	協働活動とその実践例（保坂）	
第13回目	協働活動とその実践例（保坂）	
第14回目	授業の実践例（保坂）	
第15回目	授業の実践例（保坂）	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	80%	2つのレポートを（40点満点のものを2つ）提出する。評価基準については講義中に述べる。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：自作プリント等を使う。参考書は講義内で指示する。		
履修上の留意点・ルール		
休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育方法論 The Theory of Teaching Method		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	必修	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育原理 保育者論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
幼稚園教諭免許状取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
保坂里絵	授業中に指示します	火・水・金(授業時間は除く)		授業中に指示します
授業の概要				
保育の方法の原理、保育方法の基本、幼児理解と保育方法の理論を踏まえ、保育の計画と実践・評価、総合作用としての援助、遊びと生活の援助、それら保育の連続性と循環性などを題材として幼児教育の方法指導についての知識、技能の習得を図り、「生きる力」の基礎を育むための教育方法を考える。				
授業の目標				
①子どもの「生きる力」の基礎「心情」「意欲」「態度」を育てるねらいを達成するための教育方法について基本的な認識を持つことができるようにする。 ②教育方法の原理、保育における指導と援助に関する基本的な知識・技能を習得することができるようにする。 ③子どもにとっての「生活」および「遊び」の意味と意義、ねらいの総合性の意味を習得することができるようにする。 ④個及び集団に対する適切な環境を構成するための基本的な知識・技術を習得することができるようにする。				
授業の方法				
基本的には、講義形式で行う。「調べる、考える学習」を重視した授業の展開を図り、レポートの提出を求める。单元ごとに小テストを行う。				
学習の成果(学習成果)				
①幼児教育の方法、指導についての知識、技術を活用して、「生きる力」の基礎を育むことができる。 ②幼児の発達過程を十分に踏まえて教育方法の最適化を図り個及び集団に対する適切な環境を構成し、遊びを通じた総合的指導によって、あらゆる領域を通して子どもの発達と学びを保障することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の概要と進め方について 受講に関する注意点について			
第2回目	保育の基本と保育の方法			
第3回目	幼児理解との方法			
第4回目	幼児期にふさわしい教育の方法			
第5回目	環境の構成と保育の展開			
第6回目	一人一人に応じた指導			

第7回目	遊びの指導
第8回目	生活の指導
第9回目	発達に応じた指導
第10回目	さまざまな指導形態
第11回目	学び合い育ち合うクラスづくり
第12回目	園内外の環境を生かした保育
第13回目	保育者に求められる専門性
第14回目	保育者として自分を問う 試験
第15回目	子どもが求める保育者 保育者としての自分を育てる

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	出席や受講する態度、ノートのまとめ方・授業で使われる教材準備など積極的に取り組んでいる。
レポート	20%	課題に対し詳細に探究し、内容構成がしっかりされ課題の条件が満たされている。(詳細については、ガイダンス及びその都度授業の中で説明する。)
調査報告書		
小テスト	20%	単元終了時に小テストを行う。授業や教科書に書かれていることが十分習得している。(詳細は、ガイダンス及びその都度授業の中で説明する)
試験	50%	授業内での学びを踏まえ、設問に対し保育の場に応じた適切な表現で述べられている。
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

教科書 保育方法 光生館
 参考図書 幼児教育の方法 北大路書房
 保育原理 ミネルヴァ書房

履修上の留意点・ルール

目的意識をもって意欲的に授業に臨み、私語を慎むこと。季節や気温の状況以外は、飲食物の持ち込みを禁止する。